

【ねがいましては】

第66号

平成6年6月28日
共和珠算学習塾

「キャッチボール」

先日、ある生徒に論文を書いてみろと言われました。「教育の根本に最も必要なものは何か、あなたの経験から考察せよ。」というのが題目でした。実は、サッとペンが動きませんでした。この「最も」というのがどうにもひっかかって絞れなかったのです。それくらい大切なことがたくさんあるのだなと感じたのです。数十分の後、私はこのように書きました。「心のキャッチボールをすること」自分の本心で当たり本心をぶつけてもらう、とでも言いましょうか。何かまだしつくりこないのですが・・・。私は本心をぶつけてもらう、ということが実は大きなカギを握っているように思います。

私はここから様々な枝葉が生まれるような気がしたのです。根本的な行動は、人ととのふれ合いなのです。真剣な心のやりとりが行われます。通勤電車の中の人間関係のように他人と他人が無視しあって生存しているような空間ではけっしてありません。

思いやりの枝が出来、やさしさの枝が伸び、明るさの枝が見え、根気の葉が茂り、やがて子どもたちとの間にしっかりと根を築くでしょう。それは皆、子どもたちが自ら伸びようとした枝葉であるべきだと思います。そのためには、教育者は土の中から水を吸い上げ、太陽と手をつなぎ、十分な栄養分を分け与え（そこにキャッチボールがあると思います）、子どもたちは四方八方に伸びようします。自らの意思です。これは親子間でも同様だと思います。

以前、15年ほど前のことですが、ある中学生が私にさり気ない質問をしました。「先生、教師って子どもたちに色をつけてもいいのかな。それとも真っ白なままにしておいてあげるのがいいのかな？」私は即答できませんでした。そして彼女は言いました。「私は子どもたちの持っている見えない色をさがしてあげるのが仕事だと思う・・・私、大きくなったら先生になるんだ。」当時、中3だった彼女は現在結婚し、子どもも2人儲け、そして重度の障害児施設で教育に携わっています。以前は子どもに噛まれた、ひっかかれたと言って腕の傷を見せてもらったりしました。腕の皮はそのまま子どもの爪の間に残るのだそうです。私はその時、自分の小ささを感じました。まだまだ甘い！私は彼女の言葉を「子どもたちが自分のこころをしっかりと持てるように助けてあげること」などと、そのように受け取っています。そして今でもその考えは、私の教育理念の根本にあります。「自分の道は自分で決めよう」です。そのためのオタスクエマンです。そこからキャッチボールが見つかったということです。

現在、私のところには数人、教職を目指している生徒がいますが、こころか思うこと・・・絶対になれよ！

*以前、第57号で紹介しました、武田 美穂さんがこの6月、福栄中学校で教育実習をしました。最終日、ここへ寄ってくれました。一言、「絶対に先生になります」という元気な声に、こみ上げるものを感じました。まだまだ道は険しいだろうけど、無事目的地へたどりついていただきたいと思います。

★7月9日（土）・・・お昼の12時より、キャンプでつくる特製カレーをごちそうします。
ごはんは各自用意してください。また、その日午後1時より、キャンプの行事、作戦会議をおこないます。参加者はもちろん、まだ、行こうか迷っている人もどうぞ。

★夏の予定・学習科夏期講習のお知らせは別紙にてお知らせいたします。